



「やってみたい」が地域のカタチになる ～エリアミーティングから始まる新しい地域とのつながり～

- 2 私のアイデアが地域のイベントになりました！
- 3 熱中症対策標語コンテスト受賞作品
- 4 児童館だより、いきいきシニア

- 5 手当・医療費助成制度をご存じですか？
- 6・7 講座・催し物
- 8 お寄せいただいた「市政への提言」から

- 9 災害への備え「必要な口腔ケア」
- 10 フレイル予防で元気アップ！

市長コラム 多摩の風 第143回

天皇制の在り方を考える
皆さんはどう思われますか。皇室典範改正の件です。皇族数の減少などにどう対応していくか「恐れ多くも」との話です。

安定的な皇位継承策は「引き続き検討する」とのことですが、旧11宮家の男系男子を養子として迎え入れ、その方に男子が生まれれば皇位継承権が発生すると。ただ、旧宮家の血筋は室町時代まで遡ること。

「国民と共に苦楽を共にする」との戦後の象徴天皇のあり方は皇統が変われば変質してしまうのではないだろうか。

天皇は「日本国の象徴」です。「日本国民の総意」であるなら多数決ではなく、国会各会派の衆議が一致する姿が望ましいと思います。

本年、66歳を迎えられた天皇陛下は誕生日会見で「歴代の天皇は、その時代時代にあって、国民の苦しみ寄り添うべく、思いを受け継がれ、その時々にならができることを成すよう努められた」と話され、愛子内親王殿下についても能登半島地震で被災地に赴いたことに触れ「これからも被災地の人々に心を寄せてもらいたい」と語り掛けておられます。

神話の世界を背負われ、男系男子をとのプレッシャーは想像を絶する精神的重圧です。しかも、現実には歴代天皇の半数は側室の子とも言われています。

男女共同参画社会とジェンダー平等を掲げる地方自治体の首長として「恐れ多くも」側室はありえません。「国民の総意」に基づく象徴天皇制です。この際、天皇制の在り方を広く考えてみませんか。

(多摩市長 阿部裕行)